

自己表現 評価の在り方

1 考え方

- 「広島県の15歳の生徒に身に付けさせたい力」である「自己を認識し、自分の人生を選択し、表現することができる力」が、どのくらい身に付いているかを評価する。
- 「評価の観点」は、次のア、イ及びウの3つとし、その「評価規準」と合わせて全校共通とする。
- 検査官からの質問に対する受検者の回答も評価に含める。
- 「評定」は、4点を基準とし、評価の観点ごとに、5点（「十分に満足できる」状況と判断されるもの）、4点（「おおむね満足できる」状況と判断されるもの）及び3点（「努力を要する」状況と判断されるもの）のいずれかで評価する。
- 自己表現の得点（評定の合計）は、簡易開示の対象とする。

2 配点

- 検査官1人当たり15点満点（3観点×5点満点）

3 評価表

評価の観点			
ア 自己を認識する力		イ 自分の人生を選択する力	ウ 表現する力
評価規準及び評価の視点			
自分は何が好きなのか、自分はどのような人間なのかなど、自分自身のことを認識することができている。 ○ これまでや現在の自分を振り返る中で自己の個性を見いだしている ○ 他者との関わりの中で自己の個性を見いだしている ○ 自己の個性を見いだした上で、自己のよさや可能性を生かそうとしている ○ 自分は何が好きなのか、自分はどのような人間なのかなど、悩み考えている 又は、考えようとしている		自分の夢や目標、自分がやりたいことなどについて、自分で考え、選択し、自分の意志で決めることができている。 ○ 自分で選択した理由が述べられている ○ 選択を実現させるために取り組むべきことを整理している ○ 自己と他者や社会との関わりを踏まえて選択している ○ 多様な選択の幅の中で悩み考えている 又は、考えようとしている	自分自身のことや自分の意見などを、相手に理解してもらえるように、相手や場面に応じて、言葉の使い方や表現の仕方などを工夫しながら伝えることができている。 ○ 伝えたいことが明確になるように内容の構成を工夫している ○ 伝えたいことに関する根拠を掲示している ○ 伝える相手が誰かを考え、わかりやすい言葉や表現を選んで伝えようとしている
評定	評価及び評価の視点		
5点	☐ 「十分に満足できる」状況 ○ 「自分自身のことを認識する」ことが十分にできている。	☐ 「十分に満足できる」状況 ○ 「自分で考える」「自分で選択する」「自分の意志で決める」ことが十分にできている。	☐ 「十分に満足できる」状況 ○ 「相手や場面に応じて」「言葉の使い方や表現の仕方などを工夫しながら」伝えることが十分にできている。
4点	☐ 「おおむね満足できる」状況 ○ 「自分自身のことを認識する」ことがおおむねできている。	☐ 「おおむね満足できる」状況 ○ 「自分で考える」「自分で選択する」「自分の意志で決める」ことがおおむねできている。	☐ 「おおむね満足できる」状況 ○ 「相手や場面に応じて」「言葉の使い方や表現の仕方などを工夫しながら」伝えることがおおむねできている。
3点	☐ 「努力を要する」状況 ○ 「自分自身のことを認識する」ことができていない。	☐ 「努力を要する」状況 ○ 「自分で考える」「自分で選択する」「自分の意志で決める」ことができていない。	☐ 「努力を要する」状況 ○ 「相手や場面に応じて」「言葉の使い方や表現の仕方などを工夫しながら」伝えることができていない。